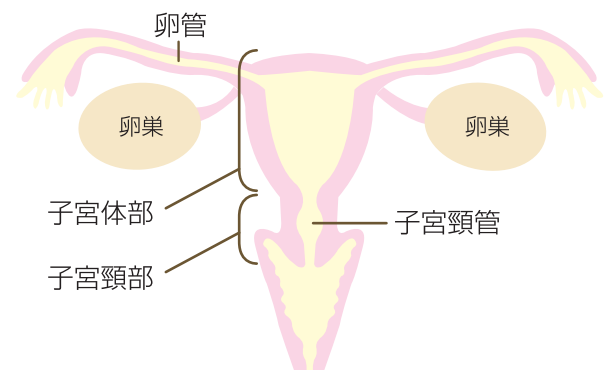


子宮頸がんとは

子宮頸がんには、大きく分けて、2種類あります。子宮頸がんは、子宮の入り口付近である子宮頸部にできるがんで、子宮体がんとは区別されます。子宮頸がんとその前がん病変は、近年、特に20代後半から40代の若い世代で増加傾向にあります。



子宮頸がんから身を守るために

子宮頸がんは、現在がんのなかで予防可能ながんです。HPVワクチン接種と定期的な検診受診が、子宮頸がんを予防するための最良の方法です。子宮頸がんは発症するまでに何年もかかるので、定期的な細胞診検査を受けることによって、がんになる前の段階（前がん病変）で発見することができ、子宮頸がんを予防することができます。

***前がん病変は「がん」ではありません。**

前がん病変が見つかったら、医師の指示のもと、精密検査を受け、焦らず経過観察しましょう。

第6版 2020年5月発行

制作：認定NPO法人キャンサーネットジャパン ティール&ホワイトリボンプロジェクト
監修：斎藤 博 / 青森県立中央病院医療顧問 青森県がん検診管理指導監
青木 大輔 / 慶應義塾大学医学部産婦人科学教室 教授

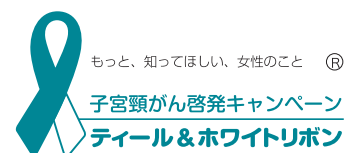
お問い合わせ先

ティール&ホワイトリボンプロジェクト事務局
〒113-0034 東京都文京区湯島1-10-2 御茶ノ水K&Kビル 2F
認定NPO法人キャンサーネットジャパン内
Tel：03-5840-6072 Fax：03-5840-6073
E-mail：info@cancernet.jp

活動にご賛同・ご支援いただける方を募集しています



子宮頸がん予防の第一歩は、正しい情報を知ることです



<http://www.sikyukeigan.net/>

子宮頸がんの原因

子宮頸がんには、ヒトパピローマウイルス（HPV）への感染が密接に関与していることが知られています。HPVには、100種類以上の異なる型があり、約15種類の高リスク型と呼ばれるHPVが、子宮頸部異常（前がん病変）あるいはがんを引き起こす可能性があります。子宮頸がんの症例の60%以上は、HPV-16型とHPV-18型という2種類の型が原因とされています。

ヒトパピローマウイルス(HPV)とは 何ですか？

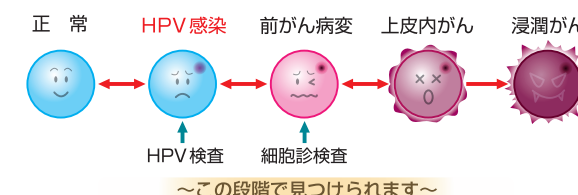
ヒトパピローマウイルス（HPV）は、どこにでも発見されるありふれたウイルスで、性体験のある人の少なくとも80%以上が、一生のうちどこかの時点でHPVに感染すると言われています。

ヒトパピローマウイルス(HPV)は 治療できるのですか？

HPV感染の治療法はありません、しかし、ワクチン接種により高リスク型の感染を防げることがわかっています。さらに、定期的な細胞診検査により子宮頸がんの発症を早期発見することが可能となります。

HPV感染と子宮頸がんへの移行

HPV感染の多くは自然に排除されますが、まれに、感染した一部の細胞が数年から数十年かけて、ゆっくりとがんに進行していきます。**細胞診検査で、前がん病変の段階で見つけることが可能です。**



子宮頸がん予防のために



HPV ワクチン

HPV ワクチンの接種で、高リスク型の一部の HPV (16 型、18 型) の感染を防ぐことが知られています。HPV ワクチンの接種は、子宮頸がんの原因となる HPV 感染を予防するといわれており、公費助成で受けることができますので、詳しくは、お住まいの市区町村の接種担当課にお問い合わせください。



細胞診検査

専用の器具を使って子宮頸部から細胞を採取することで、がん細胞が存在するかどうか、がんになりそうな細胞（前がん病変）が存在しているかどうかを調べることができます。通常は痛みはありません。検査は綿棒ではなく専用器具を使用することが推奨されています。



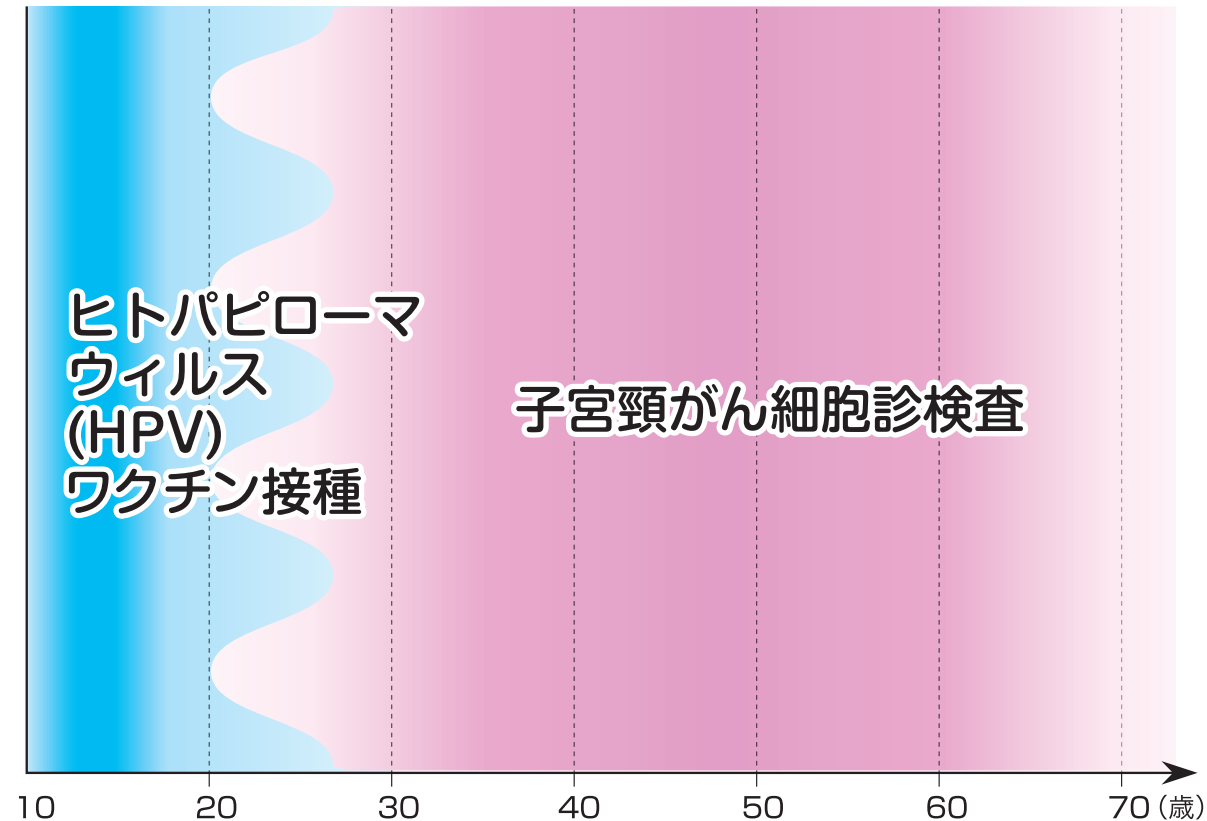
HPV 検査

子宮頸がんの原因となる HPV に感染しているかどうかを調べる検査です。この検査では、前がん病変や、がん細胞が子宮頸部にできているかどうかはわかりませんが、適切な経過観察や子宮頸がん検診の間隔を決めるうえで役立ちます。精密検査が必要な人を見つけやすい検査ですが、本来精密検査が不要な「偽陽性」も出やすい検査です。医師から勧められた場合に受けることが推奨されています。

*HPV 検査は、直接、がんの診断につながるものではありません。

子宮頸がんは 予防できます

10代はワクチンを、20代以上は検診を



HPV ワクチン^{*}と細胞診検診を、最適な時期に!

20歳から、2年ごとに細胞診検査を受けることが推奨されています。
定期的な検診で、前がん病変を発見することができます。

^{*}ワクチンについては、厚生労働省の「子宮頸がん予防ワクチンに関する Q&A」へ一般向けの情報が掲載されています。

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou28/qa_shikyukeigan_vaccine.html

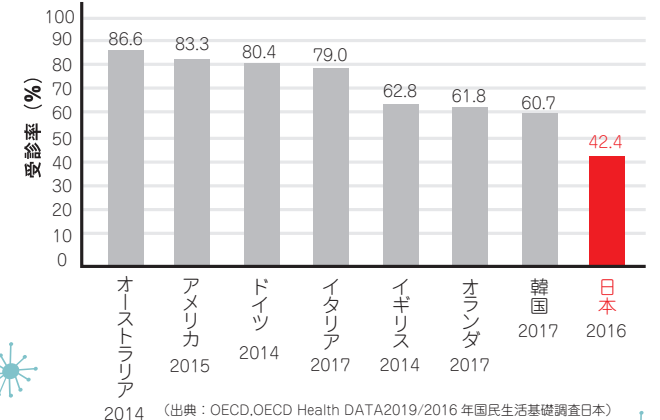
このリーフレットの情報は、2020 年 5 月時点での情報に基づいて作成されています。

早期発見のために検診を!

～まだまだ低い日本の検診受診率～

がんのなかでも子宮頸がんは、細胞診によって、がんになる前に発見でき、検診の有効性も科学的に認められているにもかかわらず、日本の検診受診率は欧米の 80% 前後に比べて著しく低いのが現状です。(日本の検診受診率は海外と違って正確なデータを把握する仕組みはありませんが、欧米の 80%前後に比べ相当低いと考えられます。)20 歳を過ぎたら、2 年に 1 度、子宮頸がん検診（細胞検診）を受けましょう。

●国別子宮頸がん検診受診率



HPV ワクチンは性交開始前の女児の接種が最も有効で、子宮頸がんの原因となる高リスク型の HPV の感染を防ぐことができるとわれています。接種してからの有効期間や、何歳まで接種して効果があるかは、まだわかっていません。ワクチンを適切な年齢で接種するとともに大事なことは、20 歳以上の女性は、2 年ごとに、細胞診による子宮頸がん検診を受ける必要がある、ということです。